

# CLAIR REPORT No. 430

## ラグビーワールドカップ2015 ～開催都市をはじめとする諸機関の取り組み～

Clair Report No.430 (March 11, 2016)  
(一財)自治体国際化協会 ロンドン事務所



一般財団法人

**自治体国際化協会**

## 「CLAIR REPORT」の発刊について

当協会では、調査事業の一環として、海外各地域の地方行財政事情、開発事例等、様々な領域にわたる海外の情報を分野別にまとめた調査誌「CLAIR REPORT」シリーズを刊行しております。

このシリーズは、地方自治行政の参考に資するため、関係の方々に地方行財政に係わる様々な海外の情報を紹介することを目的としております。

内容につきましては、今後とも一層の改善を重ねてまいりたいと存じますので、御叱責を賜れば幸いに存じます。

本誌からの無断転載はご遠慮ください。

問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麴町 1-7 相互半蔵門ビル

(一財)自治体国際化協会 総務部 企画調査課

TEL: 03-5213-1722

FAX: 03-5213-1741

E-Mail: [webmaster@clair.or.jp](mailto:webmaster@clair.or.jp)

はじめに

過去最高の観客動員数を記録し、主催者により史上最高の大会と評されたラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会は、日本チームの歴史的な勝利や、日本対サモア戦がラグビーワールドカップの新記録となる国内視聴者数 2,500 万人を達成するなど、日本においても大きな盛り上がりを見せた大会となった。

次期開催国となる日本は、今大会を通じて世界中から大きな注目を集め 2019 年大会に向けて世界中の期待が高まっている。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2021 年の関西ワールドマスターズなど、世界規模のスポーツ大会の日本開催に向けて、自治体において受け入れに向けた取り組みが進められている。

本レポートにおいては、ラグビーワールドカップイングランド大会の概要や成果とともに、機関ごとの取り組みを、事例を交えながら紹介している。

取り巻く環境が異なる中で、英国の開催都市等で行われた取り組みをそのまま日本の自治体において導入することは困難である場合も多いと考えられるが、一つの例として、今後の自治体における政策立案の一助となれば幸いである。

一般財団法人自治体国際化協会 ロンドン事務所長

## 目次

概要	1
第1章 ラグビーワールドカップ 2015	2
第1節 大会概要	2
第2節 開催に伴う効果予測	3
1 経済に関する効果予測	3
2 その他の効果	4
第3節 関係機関の概説	4
1 ワールドラグビー (World Rugby)	4
2 イングランドラグビー協会 (Rugby Football Union)	5
3 開催都市 (Host cities)	5
4 合宿所 (Team bases)	6
第4節 開催都市及び試合会場	6
第5節 合宿所 (Team bases) について	10
第6節 ファンゾーン (Fanzone) について	14
第2章 大会にかかる取り組み	17
第1節 概要	17
第2節 開催都市、合宿所選定について	17
1 開催都市の決定について	17
2 合宿所 (Team bases) の決定について	20
第3節 市民参加を促すための取り組み	24
1 Trophy Tour	24
2 Festival of Rugby 2015	25
第4節 ボランティアプログラム「The Pack」	26
1 役割	26
2 選定の基準	27
3 タイムライン	28
第3章 ケース・スタディ	30
第1節 概要	30
第2節 開催都市の事例	30
1 マンチェスター市の事例	30
2 ミルトン・キーンズの事例	35
第3節 合宿所 (Team bases) の事例	41

1	概要	41
2	バーミンガム大学 (University of Birmingham) の事例	41
3	コブハム RFC (Cobham RFC) の事例	42
	おわりに	44
	参考資料	45

## 概要

本レポートにおいては、2015年9月18日から10月31日までの約6週間にわたり、イングランド及びウェールズを舞台に開催されたラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会における主催者、開催都市、合宿所の取り組みを調査し記述することを目的とした。

第1章では、今大会の概要について整理を行い、第2章においては、大会運営に際して主に主催者が主体となって行った取り組みについて紹介している。

そして第3章においては、大会後に訪れた各開催都市、合宿所でのヒアリングをもとに、これら主体が実施した取り組みをケース・スタディとして紹介している。

ワールドカップ次期開催国として日本が世界の注目を集める中、本レポートが大会を迎えるにあたり、日本の自治体における政策立案の一助となることを願い執筆を行ったものである。

## 第1章 ラグビーワールドカップ 2015

### 第1節 大会概要

2015年9月18日から10月31日の間、第8回大会となるラグビーワールドカップ2015イングランド大会が開催され、11都市の13会場を舞台に熱戦が繰り広げられた<sup>1</sup>。

ラグビーワールドカップは、ラグビーユニオン（Rugby Union Football）に属するナショナルチームの世界一を決定するために開催される国際大会であり、1987年の第1回大会以来、4年に1度の頻度で開催されている。

イングランドでの開催は2009年7月28日にワールドラグビー（旧：国際ラグビー評議会）理事会にて決定され、これにより、1991年第2回大会以来2度目となるイングランドでの開催が決定した。同時に、2019年第9回大会の開催国が日本となることも決定され、日本はアジアで初めてのワールドカップ開催国となることとなった。第9回大会は、2019年9月20日に東京で行われる開幕戦を皮切りに、11月2日までの期間、12都市の12会場で開催される予定となっている。

第8回大会では、ニュージーランドが史上初となるワールドカップ2連覇を達成したほか、2007年フランス大会の225万人を超える2,477,875枚のチケットが購入され売上額は2億5千万ポンド<sup>2</sup>（≒462億5千万円）に上った。開催会場付近等に設けられた全15カ所の入場無料のファンゾーンには100万人を超える人が来場し、大型スクリーンを通しての試合観戦や関連イベントを楽しんだ。また、電子媒体を通じたファンらの参加もめざましく、ハッシュタグ「#RWC2015」は1秒間に平均2回、大会期間中には計500万回以上もソーシャルメディアをはじめとする各種媒体で使用された。海外から訪れたファンは約46万人と推計されている。

これらの成果を受け、大会オーナーであるワールドラグビーの Bernard 会長は、「2015年大会は最も競争的で、最も参加を呼び、最も観戦され、最もソーシャルメディアの参加を促し、最もコマーシャルに成功したワールドカップ（“the most competitive, best-attended, most-watched, most socially-engaged, most commercially-successful Rugby World Cup”）」であったと述べ、史上最高の大会となったことを強調した。

第8回大会はまた、次期開催地である日本チームが注目された大会でもあった。「スポーツ史上最大級の番狂わせ（“one of the greatest upsets in sporting history”）」とも称された、強豪南アフリカへの勝利は大勢の人の心を捉え、また、10月3日のサモア戦においては、日本国内視聴者数2,500万人を記録した。惜しくも決勝トーナメントへの出場はかなわなかったものの、ワールドカップ史上初となる3勝を収め、第9

---

<sup>1</sup> イングランドを開催国とするが、ウェールズにあるミレニアム・スタジアムも会場の一つとなっている

<sup>2</sup> 1ポンド=185円として計算

回大会に向けて注目が集まっている。



写真1 スタジアム応援の様子

## 第2節 開催に伴う効果予測

開催に先立ち、ロンドンを本拠地とする大手会計事務所からは「The economic impact of Rugby World Cup 2015<sup>3)</sup>」という効果予測に関する報告書が発行された。同報告書で挙げられた主な項目は以下のとおりである。

### 1 経済に関する効果予測

- ・開催国の経済において最大で22億ポンドの生産額を生み出し、GDPを9億8,200万ポンド増加させる

(内訳)

①観客による売り上げ＝8億6,900万ポンド（スタジアム、観戦関連支出及び一般観光支出）
②インフラ投資＝8,500万ポンド（決勝戦など多数の試合が開催されたメイン会場の一つであるトゥイッケナム・スタジアム（所在：ロンドン・リッチモンド・アポン・テムズ区）改修工事7,600万ポンド、サンディー・パーク・スタジアム（所在：エクセター）への収容人数増加のための工事65万ポンドなど）
③海外からのチケット売り上げ＝6,800万ポンド
④海外からの観客によるスタジアムでの売り上げ＝1,300万ポンド ※フットボールの試合と異なり、ラグビーの試合においては、試合会場にお

3

[http://www.ey.com/Publication/vwLUAssets/EY-rugby-world-cup-final-report/\\$FILE/EY-rugby-world-cup-final-report.pdf](http://www.ey.com/Publication/vwLUAssets/EY-rugby-world-cup-final-report/$FILE/EY-rugby-world-cup-final-report.pdf)

けるアルコール販売が可能であり、予測売り上げを押し上げる要因となった。
⑤ファンゾーンでの売り上げ＝500万ポンド
⑥その他間接・波及効果＝11億6,500万ポンド

- ・過去のどの大会よりも多い観客数が見込まれ、大会期間中に最大で46万6,000人のファンが世界各国から観戦に訪れる見込み
- ・試合会場の収容力に占める入場者の割合は95%程度になる見込み
- ・約230万枚のチケット売り上げを記録し、約222万人が来場する見込み
- ・最大で4万1,000人の雇用が生み出される見込み（300人を超える大会運営のフルタイム雇用職員、大会関係で直接追加雇用される1万6,000人の職員、主催者が募集する6,000人のボランティア等を含む）

## 2 その他の効果

- ・ファンゾーンでの体験や地元ボランティアの参加、その他地元密着型のイベントを通じて、「地元の一体感」の高まりが実現される
- ・大会を通じて、ラグビーに対する人々の興味が飛躍的に増大し、より多くの人選手、ボランティア、サポーターとしてラグビーにかかわることが期待されるとともに競技人口の増加が実現される
- ・英国企業の事業拡大、英国製品の輸出拡大に貢献することが期待される。英国経済の国際的競争力を高める
- ・各都市の魅力を海外に紹介し、観光スポットとしての認知度向上につながる

## 第3節 関係機関の概説

ワールドカップの運営に際しては、さまざまな機関が関係することとなった。主な機関と担った役割について以下のとおり概要を記載する。

### 1 ワールドラグビー (World Rugby)

ワールドラグビーは、ラグビーユニオン競技の管理・運営を行う国際組織であり、旧国際ラグビー評議会 (The International Rugby Board) が2014年11月に現在の組織名に改称されたもの。4年に1度のラグビーワールドカップのほか、ワールドラグビーセブンス(7人制ラグビーの国際大会)、ワールドラグビーU20選手権(20歳以下の世界選手権)等の国際大会の運営を行っている。

ラグビーワールドカップの運営に関しては、ワールドラグビーの完全子会社であるラグビーワールドカップリミテッド (Rugby World Cup Limited、以下「RWCL」) が業務を請け負っており、RWCLはオーナーとして、トーナメントの運営や、ロゴの管理、商権、商権に基づく収入(一部例外を除く)、その他トーナメントに付随す

る権利等を有している。

## 2 イングランドラグビー協会 (Rugby Football Union)

イングランドラグビー協会は、イングランドにおけるラグビーユニオン競技の管理・運営、競技の発展等を担う組織。1871年に設立され、現ワールドラグビーが1886年に設立される前は、国際組織としての役割も果たしていた。

ラグビーワールドカップの開催にあたり、イングランドラグビー協会は完全子会社としてイングランドラグビー2015 (England Rugby 2015、以下「ER2015」) を設立し、ER2015 はトーナメントの主催者として、開催都市、試合会場、合宿所の決定・調整のほか、大会にかかるプロモーション、ボランティアの育成等に携わることとなった。

## 3 開催都市 (Host cities)

2012年10月8日にER2015が発表した暫定リストに登録されていた15都市(17会場)の中から、2013年5月2日に最終的に11都市(13会場)がワールドカップの開催都市に選ばれた<sup>4</sup> (開催都市、会場の情報については第4節参照)。

各開催都市は、交通対策、ファンゾーンの運営、メディア・マーケティング、市内装飾 (City Dressing)、市内清掃 (City Cleansing) 等の役割を担った。

---

<sup>4</sup> リストのうち、惜しくも落選となった5都市(会場)は、Bristol (Ashton Gate)、Coventry (Coventry Stadium)、Derby (Pride Park)、Southampton (St Mary's Stadium)、Sunderland (Stadium of Light) の5都市5会場。

2013年4月にはExeter (Sandy Park)が追加され、Manchester (Old Trafford Stadium) は、Manchester (Manchester City Stadium) へと変更となった

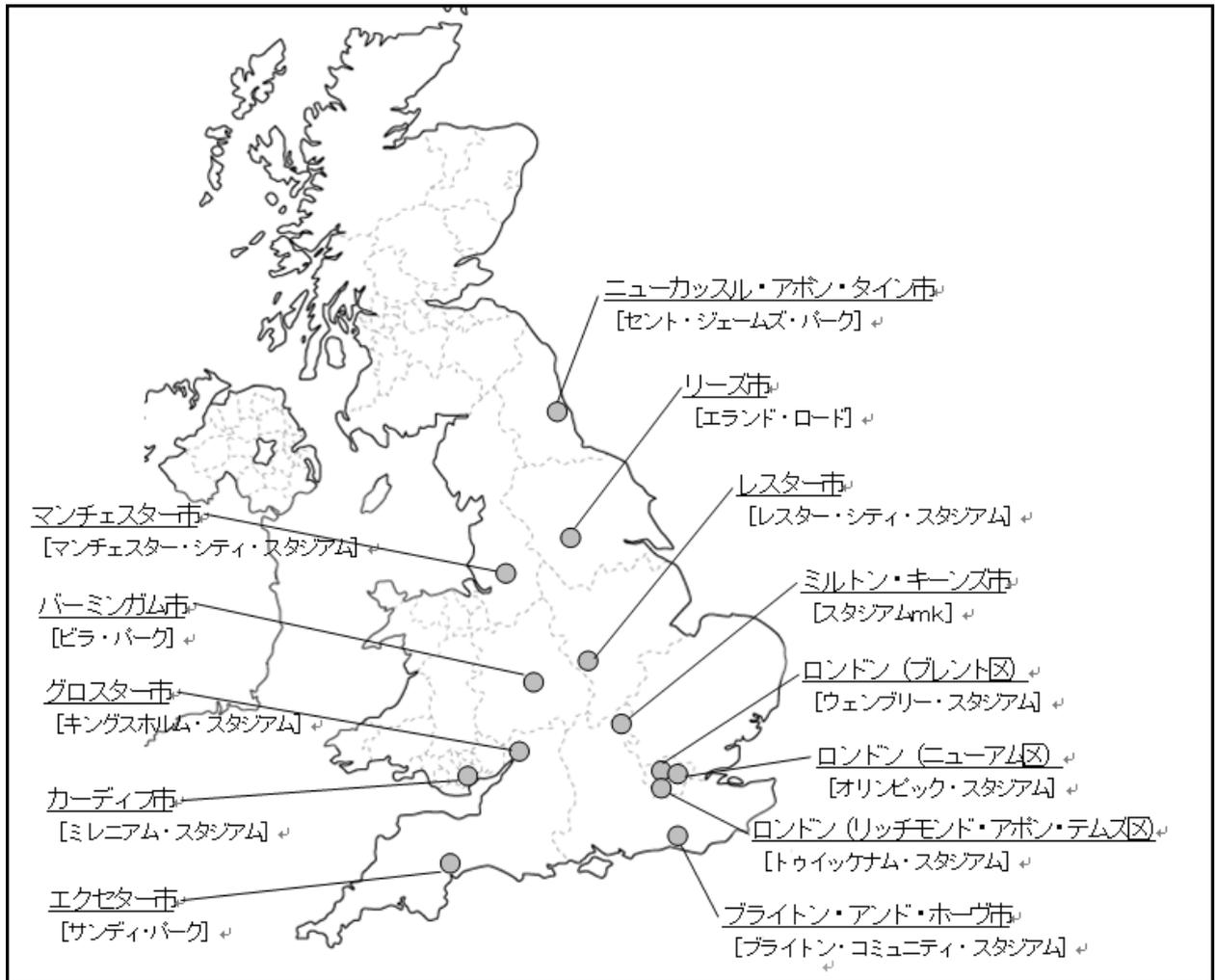


図1 開催都市・試合会場

#### 4 合宿所 (Team bases)

大会に参加する 20 チームのために、イングランド、ウェールズに合宿所が設けられた (合宿所及び使用したチームの情報は第 5 節参照)。合宿所の選別は 2013 年春頃より公募により行われ、約 100 の施設から応募があり、ER2015 の現地視察等を経て 2014 年 8 月に 41 カ所が選ばれた。

合宿所は、宿泊施設、屋外・屋内トレーニング施設、ジム設備、プールを備えた施設 (もしくはそれらが短時間でアクセス可能な施設) であることが条件とされ、開催地に渡ってからの選手のトレーニング、宿泊場所としての役割を担った。

#### 第 4 節 開催都市及び試合会場

ラグビーワールドカップの開催都市及び試合会場の一覧は以下の表のとおりであった。また、チケット販売総数は 2,477,875 枚を記録し、全試合を通しての会場収容人数に占めるチケット販売数の割合は 95.7%を超えた。

表1 試合会場、開催都市に関する情報

試合会場名	開催都市	会場所 有者	収容人数	実施され た試合数	述ベチケ ット販売 枚数	1 試合平 均販売枚 数（端数 切り捨 て）
ブライトン・コ ミュニティ・ス タジアム （ Brighton Community Stadium）	ブライト ン・アン ド・ホー ブ市	ブライト ン・アン ド・ホー ブ・アル ビオン・ フットボ ール・ク ラブ	30,750 人	2 試合	58,468 枚	29,234 枚
エランド・ロー ド（ Elland Road）	リーズ市	リーズ・ ユナイテ ッド・フ ットボー ール・クラ ブ	37,914 人	2 試合	66,641 枚	33,320 枚
キングズホル ム・スタジアム （ Kingsholm Stadium）	グロスタ ー市	グロスタ ー・ラグ ビー・ク ラブ	16,500 人	4 試合	57,327 枚	14,331 枚
レスター・シテ ィ・スタジアム （ Leicester City Stadium）	レスター 市	レスター ・シテ ィ・フッ トボー ール・クラ ブ	32,312 人	3 試合	86,475 枚	28,825 枚
マンチェスタ ー・シティ・ス タジアム （ Manchester City Stadium）	マンチェ スター市	マンチェ スター市	47,800 人	1 試合	50,778 枚	50,778 枚

ミレニアム・スタジアム ( Millennium Stadium)	カーディフ市	ウェールズ・ラグビー協会	74,154 人	8 試合	564,524 枚	70,565 枚
オリンピック・スタジアム ( The Stadium, Queen Elizabeth Olympic Park)	ロンドン・ニューアム区	グレーター・ロンドン・オーソリティ	56,000 人	5 試合	266,216 枚	53,243 枚
サンディー・パーク ( Sandy Park)	エクセター市	エクセター・ラグビー・クラブ	12,300 人	3 試合	32,709 枚	10,903 枚
セント・ジェームズ・パーク ( St James' Park)	ニューカッスル・アポン・タイン市	ニューカッスル・ユナイテッド・フットボール・クラブ	52,409 人	3 試合	153,867 枚	51,289 枚
スタジアム MK ( Stadium MK)	ミルトン・キーンズ市	MK ドンズ・フットボール・クラブ	30,717 人	3 試合	87,212 枚	29,070 枚
トウイッケナム・スタジアム ( Twickenham Stadium)	ロンドン・リッチモンド・アポン・テムズ区	イングランドラグビー協会	81,605 人	10 試合	796,241 枚	79,624 枚
ヴィラ・パーク ( Villa Park)	バーミンガム市	アストン・ヴィラ・フットボール・クラブ	42,785 人	2 試合	79,131 枚	39,565 枚

ウェンブリー・スタジアム ( Wembley Stadium)	ロンドン・ブレント区	イングランド・フットボール協会	90,000 人	2 試合	178,286 枚	89,143 枚
------------------------------------	------------	-----------------	----------	------	-----------	----------



写真2 決勝戦会場ともなったトゥイッケナム・スタジアム



写真3 「ウェールズ・ラグビー代表の聖地」ともいわれるミレニアム・スタジアム  
(カーディフ市)

## 第5節 合宿所 (Team bases) について

大会に参加した 20 のチームと、それぞれのチームが使用した合宿所の一覧は以下の表のとおりであった。合宿所は、対戦スケジュールや試合会場等を考慮の上決定された。ほとんどの合宿所は予選リーグのために設けられたが、一部の施設は決勝トーナメント出場チームによって使用されることとなった。

表2 合宿所 (Team bases) に関する情報

チーム名	合宿所 (Team bases) 名
アルゼンチン (Argentina)	Cheltenham RFC (Cheltenham RFC, Leisure@, Gym 66)
	Haileybury School
	St George's Park
オーストラリア (Australia)	University of Bath
	Dulwich College
カナダ (Canada)	Cardiff Metropolitan University
	West Park Leeds RUFC(West Park Leeds RUFC, John Charles Centr
	Leicester Grammar School
	Swansea University(Swansea University, Wales National Pool Swansea)
イングランド (England)	Pennyhill Park
	Salford (The AJ Bell Stadium, Irlam and Cadishead Leisure Centre)
フィジー (Fiji)	Milton Keynes and MK Dons (Woughton on the Green, Bletchley Leisure Centre)
	Swansea University (Swansea University, Wales National Pool Swansea)
	London Irish RFC (London Irish RFC, Elmbridge Xcel Leisure Complex)
フランス (France)	The Vale Resort
	Trinity School Croydon
グルジア (Georgia)	Woodbury Park and Bicton College (Woodbury Park Hotel and Golf Club, Bicon College)

	Bristol & SGS Wise (South Gloucestershire & Stroud College, Bradley Stoke Leisure Centre)
	Celtic Manor and Newport (Newport High School/Active Living Centre, The Celtic Academy)
アイルランド (Ireland)	Celtic Manor and Newport (Newport High School/Active Living Centre, The Celtic Academy)
	St George's Park
	Surrey Sports Park
	Sport Wales National Centre
イタリア (Italy)	Surrey Sports Park
	Cobham RFC (Cobham RFC, ACS Cobham)
日本 (Japan)	Warwick School
	Brighton College
ナミビア (Namibia)	Loughborough University
	Cobham RFC (Cobham RFC, ACS Cobham)
	Plymouth (University of St Mark & St John, Plymouth Albion RFC, Plymouth Life Centre and Royal Navy Rugby Union)
ニュージーランド (New Zealand)	The Lensbury and St Mary's University
	Sport Wales National Centre
	Darlington Mowden Park (Darlington Mowden Park RFC, Middlesborough FC)
ルーマニア (Romania)	Sutton Coldfield RFC (Sutton Coldfield RFC, Birmingham Metropolitan College, Wyndley Leisure Centre, CrossFitB76)
	Woodbury Park and Bicton College (Woodbury Park Hotel and Golf Club, Bicton College)
	Dulwich College
サモア (Samoa)	Sutton Coldfield RFC (Sutton Coldfield RFC Birmingham Metropolitan College, Wyndley Leisure Centre, CrossFitB76)
	University of Brighton (University of Brighton, Prince Regent Swimming Complex)
	Gateshead (Gateshead International Stadium, Gateshead Leisure Centre, Gateshead College)

	Milton Leynes & MK Dons (Woughton on the Green, Bletchley Leisure Centre)
スコットランド (Scotland)	Hartpury College
	Leeds Beckett University and University of Leeds
	Newcastle Royal Grammar School
南アフリカ (South Africa)	The Lensbury and St Mary's University
	University of Birmingham
	Gateshead (Gateshead International Stadium, Gateshead Leisure Centre, Gateshead College)
	Eastbourne College and University of Brighton (Eastbourne College, University of Brighton – Eastbourne Campus)
トンガ (Tonga)	Cheltenham RFC (Cheltenham RFC, Leisure@, Gym 66)
	Loughborough University
	University of Exeter
	University of Northumbria (University of Northumbria at Newcastle)
ウルグアイ (Uruguay)	Celtic Manor and Newport (Newport High School/ Active Living Centre, The Celtic Academy)
	Loughborough University
	Moulton College
	Manchester (Broughton Park FC (Rugby Union), The Hough End Centre, Manchester Aquatics Centre)
アメリカ合衆国 (USA)	Haileybury School
	Hartpury College
	Leeds Trinity University (Leeds Trinity University, Kirkstall Leisure Centre)
	Portsmouth Royal Navy Rugby Union
ウェールズ (Wales)	The Vale Resort
	London Irish RFC (London Irish RFC, Elmbridge Xcel Leisure Complex)
決勝トーナメント出場チーム	Celtic Manor and Newport
	Swansea University
	The Vale Resort
	Sport Wales National Centre
	Pennyhill Park

	Surrey Sports Park
	The Lensbury and St Mary's University
	London Irish RFC

これら合宿所となった施設を分類してみると、以下のようになった(一部重複あり)。英国に 2,000 あるといわれるラグビークラブよりも多くの大学施設が合宿所として利用されている。学生のリソースとしての活用や、ボランティアの経験を積ませるといった教育的な効果が背景としてうかがえる。

表3 合宿所の分類

分類	キャンプ地
大学 22	Brighton College, Bristol & SGS WISE, Cardiff Metropolitan University, Dulwich College, Eastbourne College & University of Brighton, Gateshead, Heileybury, Hartpury College, Leeds Beckett University & University of Leeds, Leeds Trinity University, Loughborough University, Moulton College, Plymouth, Surrey Sports Park, Swansea University, The Lensbury & St Mary's University* <sup>6</sup> , University of Bath, University of Birmingham, University of Brighton, University of Exeter, University of Northumbria, Woodbury Park & Bicton College
中学・高校 7	Celtic Manor & Newport, Cobham RFC, Leicester Grammar School, Newcastle Royal Grammar School, Sutton Coldfield RFC, Trinity School Croydon, Warwick School,
ラグビー クラブ 6	Cheltenham RFC, Cobham RFC, Darlington Mowden Park RFC, London Irish RFC, Portsmouth Royal Navy Rugby Union, West Park Leeds RUFC
フットボ ールクラ ブ 1	Milton Keynes & MK Dons
リゾート ホテル 5	Celtic Manor & Newport, Pennyhill Park, The Lensbury & St Mary's University, The Vale Resort, Woodbury Park & Bicton College
地方自治 体 5	Gateshead, Manchester, Milton Keynes & MK Dons, Plymouth, Salford,
公的団体 2	Sport Wales National Centre, St George's Park

## 第6節 ファンゾーン (Fanzone) について

ファンゾーンは「公共、または観客が集まるエリアに設置された、大型スクリーンを含むパブリックビューイングエリアのうち、Rugby World Cup Limited<sup>5</sup>により公式なものとして認められたエリア (public viewing areas including large screens in public places and/or other spectator experience areas that are designated as official by RWCL)」と定義されており、大会期間中には、全部で15のファンゾーン (試合会場近辺に設置された13カ所及びラグビー発祥の地であるラグビー市、主要観光名所であるロンドンのトラファルガー広場) が設置された。ファンゾーンの入場は無料で、試合のパブリックビューイングやラグビーの体験コーナー、グッズ販売等が行われた。会場の規模も2,000人から10,000人までさまざまであり、大型テント内での飲食物販売や、観覧車やメリーゴーランドを楽しめるものもあった。また、長期間に渡り設置されたファンゾーン等では、試合の行われない日にコンサートやクイズ大会、花火等の催しを実施したものもあり、大会期間中に推計で100万人を超える人がファンゾーンを訪れたと発表されている。

前述の試合会場近辺の13のファンゾーンについては開催都市が会場を提供する義務を負い、その費用についても開催都市が負担するものであった。また、主催者が開催都市に送付した「England 2015 Fanzone Guidelines to Host Cities<sup>6</sup>」に従って、開催都市は以下のような要素 (Core Elements) を備えることとされた。

### < Core Elements 例 >

- ・ファンゾーンの設置場所については、原則的に市中心部またはそれに隣接するエリアとすること
- ・特段の同意が無い場合においては、原則として10日以上期間においてファンゾーンを運営すること
- ・特段の同意が無い場合においては、原則として5,000人以上の収容能力を有する会場とすること
- ・ファンゾーンにおいては最低1基の大型スクリーンを備えること。大型スクリーンの視界は妨げられてはならず、これが困難な場合においては台数の増加を検討する必要があること
- ・公式ファンゾーンであることを明白にするため、主催者は開催都市に対してスタンダードキット (Standard Kit of Parts) を送付し、送付されたキットをもとに各開催都市では入場アーチやフェンス、垂れ幕等の制作を行うものとする。これらの制作に要する費用は開催都市の負担となること

<sup>5</sup> World Rugby の完全子会社。ワールドカップに際し、トーナメントの企画、大会ロゴの管理、商権の管理等を World Rugby より委託されている

<sup>6</sup> <http://www.staffsrfu.com/uploads/England%202015%20Fanzone%20Guidelines.pdf>

- ・ファンゾーンの安全・安心を最優先の課題とすること。開催都市においては、ファーストエイド、安全管理担当者、警察との連携、交通計画等を明確にし、これら要素については、最終ファンゾーン運営計画（Final Fanzone Operational Plan、2015年3月末までの提出が義務づけられた）に明記しなければならないこと
- ・ファンゾーンにおいては、1995年障害差別禁止法（The Disability Discrimination Act 1995）等 に示されたアクセシビリティ基準を満たし、障害者用トイレ、スタッフの配置等、障害のある人にとっても利用可能な施設とすること

大会開催期間中に開催されたこれら 15 のファンゾーンの名称及び設置された場所については、以下のとおりであった。

表4 ファンゾーン一覧

名称	所在
マデイラ・ドライブ (Madeira Drive)	ブライトン・アンド・ホーブ市
ミレニアム・スクウェア (Millennium Square)	リーズ市
グロスター・ドックス (Gloucester Docks)	グロスター市
ヴィクトリア・パーク (Victoria Park)	レスター市
アルバート・スクウェア (Albert Square)	マンチェスター市
カーディフ・アームズ・パーク (Cardiff Arms Park)	カーディフ市
クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク・スペクテーター・プラザ (Q.E. Olympic Park Spectator Plaza)	ロンドン・ニューアム区
ノーザンヘイ・ガーデンズ (Northernhay Gardens)	エクセター市
サイエンス・セントラル (Science Central)	ニューカッスル・アポン・タイン市
キャンプベル・パーク (Campbell Park)	ミルトン・キーンズ市
オールド・ディア・パーク (Old Deer Park)	ロンドン・リッチモンド・アポン・テムズ区
イーストサイド・パーク (Eastside Park)	バーミンガム市
ウェンブリー・パーク (Wembley Park)	ロンドン・ブレント区
オールド・マーケット・プレイス (Old Market Place)	ラグビー市
トラファルガー・スクウェア (Trafalgar Square)	ロンドン・ウェストミンスター区



写真4 ブライトン・アンド・ホーブ市に設けられたファンゾーン



写真5 オールド・ディア・パークに設けられたファンゾーン  
(ニュージーランド優勝が決まった時の様子)

## 第2章 大会にかかる取り組み

### 第1節 概要

イングランドでのラグビーワールドカップ 2015 開催が決定された後、開催都市や合宿所の決定、開催国内でラグビーを盛り上げるためのイベント、大会を支えるボランティアのトレーニングなどの取り組みが進められた。

本章においては、第2節において開催都市、合宿所選定の流れを紹介するとともに、第3節及び第4節においては、大会主催者である ER2015 が実施した大会を盛り上げるための取り組み及びボランティアプログラムについて紹介する。

### 第2節 開催都市、合宿所選定について

#### 1 開催都市の決定について

ワールドカップの開催地となった 11 都市 13 会場は、2012 年 10 月 8 日に ER2015 より発表された暫定リスト (Long list of venues) をもとに決定された。開催各都市においては、ER2015 との間で開催都市協定 (Host City Agreement) を締結し、協定に基づいた役割を担うこととなった。

ここでは、開催都市決定までの過程において検討された「開催都市にもたらされる効果」「開催都市協定」「選定の流れ」について、イングランド南部のブライトン・アンド・ホーブ市の例をもとに紹介する<sup>7</sup>。

#### (1) 開催都市にもたらされる効果

- ・世界規模のスポーツイベントの開催によって、スポーツ都市、文化都市、旅行先としての都市の評判が高まる
- ・2011 年ニュージーランド大会での開催都市における経済効果が示すように、ラグビーワールドカップ 2015 の試合を開催することは、都市の経済に有益な効果をもたらすことが期待できる
- ・世界中の人に対する、都市の認知度向上につながる
- ・英国における第一級のスポーツ開催会場としてのスタジアムの認知度向上につながる
- ・将来の主要なスポーツイベントにおいて、開催都市、開催会場として選定される可能性が高まる
- ・試合直前や試合開催機関中の観光客増加が期待できる
- ・(開催都市協定に基づき) 長期にわたるレガシーの形成を目的に専門スタッフが

<sup>7</sup>

[http://present.brighton-hove.gov.uk/Published/C00000689/M00004086/AI00030789/\\$20121120104216\\_002933\\_0011432\\_ReportTemplateCommittee.docA.ps.pdf](http://present.brighton-hove.gov.uk/Published/C00000689/M00004086/AI00030789/$20121120104216_002933_0011432_ReportTemplateCommittee.docA.ps.pdf) および担当者へのヒアリングにより作成

雇用されることとなる。都市のスタッフと ER2015 の専門スタッフ、学校や地域のラグビークラブとの協働を通して強いパートナーシップが形成される

- ・ラグビーの試合を地域で開催する直接的な効果として、都市におけるラグビーのステータスが高まり、さらに間接的な効果として、その他のスポーツへの参加が促される
- ・ラグビークラブへの加入者が増加し、地域のラグビークラブの成長につながる

## (2) 開催都市協定

開催都市の決定にあたり、ER2015 は開催都市との間で開催都市協定を締結した。それぞれの開催都市においては、この協定に基づき、以下のような項目にかかる事項の提供が求められた<sup>8</sup>。

- ・マーケットサポート
- ・ファンゾーンの提供
- ・ラグビーワールドカップ 2015 のバナーやポスターを使った市内装飾 (City Dressing) エリアの提供
- ・ラグビーワールドカップ 2015 にかかる商権保護プログラムへの支援 (都市スタッフにおける違法商品取締まりの見回り等)
- ・交通運営対策の実施
- ・レセプション、VIP が関連するイベントにおける会場の提供
- ・ボランティアプログラムへの支援
- ・都市開発計画で使用される割当試合チケットの購入
- ・ラグビー発展計画にかかわる専門スタッフの人件費
- ・ラグビー開催までの期間から試合機関中において都市において実施されるイベントに対する、関係スタッフのアクセスの保証
- ・チーム合宿所への関係スタッフのアクセスの保証
- ・その他、ラグビーワールドカップに関するイベント実施時等における関連スタッフへの随時の支援

ブライトン&ホーブ市においては、これらにかかる費用として最大 20 万ポンド (≒3,700 万円) の支出を見込んでいた。それぞれの項目の内訳については以下のように予測されていた。

### <内訳>

- ・地域開発計画等で使用される割当チケットの購入費—1 万ポンド (185 万円)
- ・ラグビー発展計画に関する費用—5 万ポンド (925 万円)
- ・イベントにかかるサポートスタッフ人件費—4 万 5 千ポンド (832 万 5 千円)

---

<sup>8</sup> 協定に基づき各都市で実施された取り組みは、ER2015 から派遣されたスタッフと開催都市スタッフとの協働で実施。必要となる経費については開催都市負担。

- ・ボランティアプログラムへの支援—4万5千ポンド（832万5千円）
- ・関連する文化イベント—5万ポンド（925万円）

（3）選定の流れ

開催都市決定にかかる手続きは以下の流れで行われた。

表5 都市決定の手続き

2012年6月～8月	ER2015によるスタジアム視察
2012年9月	ER2015による都市へのヒアリング （人口、交通基盤、宿泊施設、イベント・観光資源、医療施設、安全保障、ボランティア、マーケティング、商権保護、都市のイベント実施可能スペース、等に関してヒアリングを実施）
2012年10月8日	ER2015が15都市17会場の暫定開催都市・試合会場リストを発表
2012年10月30日	開催候補都市・試合会場とER2015との間において暫定協定の締結
2013年5月2日	11都市13会場の開催都市・試合会場決定の最終発表

写真6 市内装飾が施されたカーディフ市



















































